

2026 年 7 月 31 日 第 3560 回例会

於： 横須賀商工会議所

持続可能な
インパクトを
生み出そう

Rotary

<点鐘・開会> 12:30 渡 邊 会長

<斉 唱> 「それこそロータリー」

<ゲスト紹介> ＊レゲエミュージシャン RUEED (本名：窪塚 亮介) 様

<会 長 報 告> ＊ガバナー事務所より

・米山学友会主催クリーンキャンペーンのお知らせについて

9月13日(日) 10:00 受付 平塚シーテラス グリルピア前集合

10:30 平塚海岸清掃活動

11:15 グリルピアにて懇親会

14:00 解散

※雨天決行

※荒天の場合、清掃活動は中止 懇親会のみ実施

＊退会報告について

<委員長報告> ＊八木幹事より財団セミナー 報告

<幹 事 報 告> ＊公益財団法人ロータリー日本財団より確定申告用寄附金領収証 受領

＊例会終了後 臨時歴代会長会議開催(306研修室)

<出 席 報 告> ＊出席委員会 江口委員長から7月31日の出席報告

会 員 数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠 席 数	メイクアップ数	出 席 率
106名	98名	67名(4名)	31名	3名	71.43%

メイクアップ： 植田、兼城、鈴木(之) 各会員 理事役員会出席

<ニコニコ報告>

- ・三 役 本日卓話を頂きます RUEED 様、横須賀レゲエバッシュ副実行委員長 池野ルーク様、運営マネージャー 木波様、ようこそお越し下さいました。今年のレゲエバッシュも期待しています。
- ・堀 川、高橋 峻、梶 木、井 上、比 護、杉 浦、権 田、江 口、飯塚 惇、角 井、松本 惇、小佐野、藤 村、高橋 惇、小林 (-)、齋藤 惇、長 尾、鈴木 惇、澤 田、萩 原、川 名、鈴木 豊、山下 惇、岡田 惇、八 巻、池 田、根 岸、山下 惇、小山 惇 各委員
レゲエミュージシャン RUEED(本名：窪塚亮介)様、卓話楽しみにしています。本日は
よろしくお願いいたします。
- ・6 番テーブル佐久間マスター、小澤サブマスター 27日、鐵丸にて6番テーブルミーティングが行われました。青少年奉仕委員会・会員増強維持委員会の皆様、大変真面目なお話し合いを
楽しく出来ました事感謝申し上げます。会長、幹事、SAAご出席ありがとうございます。
- ・江 沢、小林 (-)、齋藤 惇、角 井、八 巻 各会員 27日、6番テーブルミーティングが鐵丸にて行
われました。大変参考になるお話と共に親睦も深めることが出来ました。佐久間マスタ
ー、小澤サブマスターお土産までありがとうございました。
- ・荻 山、大野 惇、石 田、杉 浦、加藤 惇、吉 住、佐久間、真 野、
瀬 戸、角 井、小佐野、高橋 惇、木 村、齋藤 惇、齋藤 惇、波 島、
長 尾、柴 田、徳 永、川 名、平 松、野 坂、前 田、椿 各会員
令和8年熊本地震の被災地の皆様が1日でも早く日常生活に戻れますようにお見舞い申
し上げます。

<卓 話>

「未来への種蒔き」
～ 横須賀レゲエバッシュを通したメッセージ ～

本日は、経営のプロフェッショナルである皆様の前でお話する貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。横須賀出身のアーティストとして活動しておりますRUEED（窪塚 亮介）と申します。本日は単に音楽の話をするのではなく、「一つの小さな種が、いかにして街を動かす大きな木へと育っていくか」というお話をさせていただきたいと思います。皆様は30年前にご自分が蒔いた種を覚えていらっしゃるでしょうか。私が主催している音楽フェス「横須賀レゲエバッシュ」は、実は30年以上前にこの横須賀で先駆者の皆様が蒔いてくださった種が、時を経て形になった未来の一つの姿だと感じています。「レゲエ」というカリブ海にあるジャマイカ発祥の音楽と横須賀には、実は30年以上の深い歴史的なつながりと親和性があります。1979年にレゲエ界の巨星ボブ・マーリーが来日して以降、1990年代前半には日本最大のレゲエフェス「ジャパンスプラッシュ」が、1991年から1994年にかけて横須賀で開催されました。当時は本場ジャマイカから第一線のアーティストを招致し、大手企業や航空会社もスポンサーに入るなど、日本におけるレゲエ黎明期の大きなムーブメントの拠点となったのがこの横須賀でした。その後、1996年に横浜で始まった「横浜レゲエ祭」は、当初100人未満の集まりからスタートし、ロコミで広がり2003年には野外フェスへと進化。2007年には横浜スタジアムで開催されるほどの巨大イベントに成長しました。私自身、18歳だった2007年に「ROAD TO 横浜レゲエ祭」で優勝を果たし、一瞬にして3万人の観客の前で歌う機会を得ました。この体験が私の音楽家としての本格的なキャリアのスタートとなりました。2003年当時、兄である窪塚洋介の主催により、横須賀でも入場無料の野外音楽イベント「横須賀音開き」が開催されました。当時中学生だった私も客として遊びに行き、強烈な体験を得ました。かつてのジャパンスプラッシュに始まり、横浜レゲエ祭、そして横須賀音開き——。歴史の中に点在していた様々な出来事がやがて線となり、その延長線上に誕生したのが、2023年から始まった「横須賀レゲエバッシュ」です。歴史ある横浜レゲエ祭が2023年に幕を閉じたその年、奇しくも私がキャリア20周年を迎えるにあたり、「愛する地元・横須賀にもう一度立ち回り、街を盛り上げたい」という純粋な想いから第一回横須賀レゲエバッシュを三笠公園にて開催いたしました。立ち上げ当初は横須賀市の人口の1%に当たる3800人、多く見積もっても5000人程度の来場を見込んで市役所に企画書を提出しました。突貫工事で準備を進め、いざ蓋を開けてみると約2万人もの方々が来場されたのです。運営陣も困惑するほどの熱気でしたが、「伝説の始まりだ」という声を多くいただき、1回限りで終わらせるべきではないと確信しました。「最初の一步を踏み出す勇氣と仲間存在」 どれほど頭の中で素晴らしい空想を描いても、最初の「一歩目」を踏み出さなければ何も始まりません。最初は一見無謀で狂気のとも思える判断だったかもしれませんが、しかし、その一歩を踏み出したとき、私の周囲には「自分にできる協力は何か」と手を差し伸べてくれる仲間たちが現れました。横須賀ならではの強い横の繋がりによって、協力者の輪は瞬く間に広がっていったのです。実行委員会、スポンサーの皆様、クラウドファンディングでご支援くださる方、出演者、ボランティアスタッフ、そして当日来場されたお客様——。誰一人欠けても実現できない、まるで「元氣玉」のようなイベントとして成り立っています。お祭りそのものはその日で終わりますが、終わった後に人々の心や街に残る「誇り」こそが重要です。イベント終了後、子どもたちや親御さんから「不登校だった子がレゲエバッシュに行きたいと部屋から出られた」「自分もステージに立ちたいと歌を始めた」「横須賀が好きになり北海道から移住した」といった、まさに種が芽吹いた報告が多数届いています。私たちが目指しているのは、気取ったフェスではなく「街の盆踊り」です。誰もが参加でき、同じ空間と感動を共有できる場所。転



んだ子に手を差し伸べること、挨拶を交わすこと、日常のすべての良い行いもまた「未来への種蒔き」です。小さな一つの種が人を変え、周囲を変え、やがて街や社会全体を変えていく——。恐怖や悩みの種ではなく、希望に満ちた種を、これからも横須賀レゲエバッシュを通じて、自分はずっと蒔き続けていけるように頑張りますので、これからも応援していただけたら嬉しいです。本日はありがとうございました。



<閉会・点鐘> 13:30 渡 邊 会長

週報担当 荻 山 寛 樹